

財務諸表論

理論暗記セミナー

「財表の理論が覚えられない」「少しずつ覚えているけど、すぐに忘れてしまう」「そもそも、財表に暗記は必要なのか」・・・このような悩み、不安を少しでも軽減できるよう、理論を覚えるコツをご紹介します！

目 次

	<ページ>
1 はじめに	1
2 暗記の必要性	2
3 なぜ覚えられないのか?	3
4 暗記の手順!	5
5 暗記の定着!	8
6 暗記に挑戦!	9
7 終わりに	16

1 はじめに

財務諸表論の理論は会計理論等を背景とした上で、会計基準の細部まで出題されるため、満点をとることが難しい問題も出題されます。そのため、基本的事項から応用的なものまで、会計理論上の幅広い理解が必要となります。

しかし、このような問題に的確に対処するためには、会計理論や各会計基準等の「理解」だけしておけばいいというわけではありません。理解していることを試験委員にアピールするためには、その理解した内容を答案に反映させる必要があります。本試験は実際に論述して解答をしなければならず、この論述式の問題では、その解答要求につき適切な会計用語を用い、かつ適切な文章構成で解答できなければ合格点は確保できないと考えられます。

本セミナーでは、解答に必要な文章を上手に覚えるコツを紹介していきます。

2 暗記の必要性

財務諸表論の理論では論述形式の問題が出題されます。論述とは、「自分自身の言葉で作文することだ！」このように思ったこともあるでしょう。それでは、なぜ論述問題を解答するために暗記が必要なのでしょう。暗記の必要性について、こんな例をあげてみます。

(例) 目の前に「リンゴ」があることを相手に教えます。

* 「リンゴ」という言葉を知らない場合

ここに、赤くてソフトボール位の大きさで、果物で、食べると甘酸っぱくて、皮をむいてほっておくと茶色っぽくなってしまいう食べ物があります。

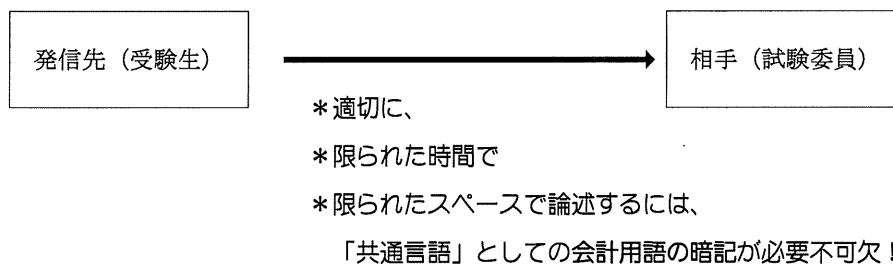
* 「リンゴ」という言葉を知っている場合

ここにリンゴがあります。

どちらが、効率的に相手にわかりやすく正確に伝わるか、一目瞭然ですね。

ここでいうところの「リンゴ」、これは共通言語であるため、「リンゴ」という言葉を使うことで、相手はもともと知っている「リンゴ」を思い描くことができます。この共通言語は財務諸表論の学習上（会計学上）でいえば「会計用語」に該当します。

「適正な期間損益計算」や「財政状態及び経営成績」のような用語は、会計学上、共通言語としての役割を果たします。このような用語を適切に用いることができれば、わかりやすく、正確にしかも短文で相手（試験委員）に伝わります。つまり、共通言語をたくさん増やす＝会計用語を正しく正確に暗記することこそが、論述式の試験で得点をかせぐカギといえるのです。



もちろん、「会計用語」は暗記をした上で、自分自身の言葉として使いこなすことが必要です。理論に充てられる解答時間はわずか約40分です。より速く正確に解答することが求められますので、このためにも正確な暗記が欠かせないのです。

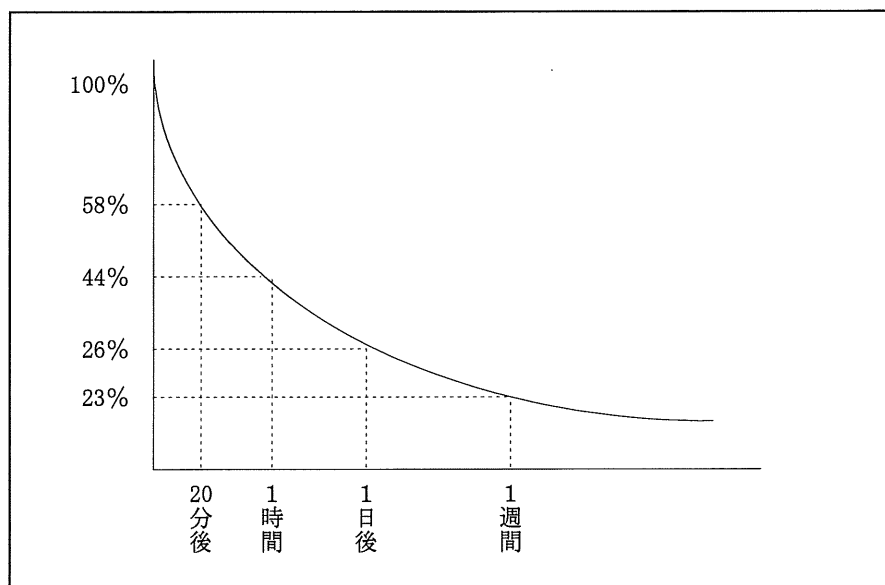
3 なぜ覚えられないのか？

「理論が覚えられない・・・」この原因を分析すると、およそ以下の2種類に分類されます。

- ① 覚えたいはずの項目なのに、すぐ忘れてしまう。
- ② 覚えたいつもりでも、答案を目の前になると言葉やキーワードが浮かばない。

まず①について考えてみましょう。

これについては、心理学者のヘルマン・エビングハウスの研究によると、記憶と忘却は以下のような「忘却曲線」で示すことができるようです。



この忘却曲線によると以下の事がわかります。

20分後 → 42%を忘却し、58%のみ記憶。 1時間後 → 56%を忘却し、44%のみ記憶。
1日後 → 74%を忘却し、26%のみ記憶。 1週間後 → 77%を忘却し、23%のみ記憶。

忘れていく記憶を定着させるためには

- ◇ 授業後、記憶が多く留まっているうちに暗記をはじめ。
- ◇ 翌日、翌々日、1週間後と時間をおいて暗記の反復を行う。

→ このように、「忘却量を抑える」「記憶量を増やす」の両アプローチが必要なのです。

参 考

記憶は、長期記憶と短期記憶の2種類

長期記憶・・・ 大脳に保存され、長期間保持される記憶をいう。

毎日の生活の記憶（エピソード記憶）、反復して覚えた記憶（意味記憶）等に分類される。

短期記憶・・・ テストの前一夜漬けのように、必要なときだけ働かせ、しばらくすると忘れてしまう記憶をいう。

短期記憶を、長期記憶に置き換えるには？

- * 繰り返し行うことで短期記憶は長期記憶（意味記憶）に置き換わる。
- * その前提、背景、構成、画像、イメージ等を併せておさえることで、意味記憶がエピソード記憶に置き換わる。
- * 意味記憶とエピソード記憶はどちらも長期記憶であるが、意味記憶はきっかけがないと思い出せない記憶であるのに対して、エピソード記憶は意識的に思い出すことができることに違いがある。試験勉強で必要なのはもちろんエピソード記憶。
- * 「記憶力のいい人」は、このエピソード記憶の活用が上手な場合が多いと思われる。

脳は、正確に覚えるのではなく、あいまいにしか覚えられない

脳は、普遍的なルールを抽出し蓄積することによって、目や耳から入ってくる情報を処理している。つまり、あいまいで大雑把に記憶することによって、その記憶は応用力をもち、臨機応変な適用力をもつことができる。

したがって、意識的に暗記をしなければならない時には、「時間をおきながら、繰り返すこと」がコツ。



次に②についてです。

これは、次頁の「暗記の手順」がカギになります。

4 暗記の手順！

では、「継続性の原則」を例にとり、実際の手順を確認します。

【手順1】 文章の構成を確認しながら、キーワードを覚えてみましょう。

財務諸表論の理論の暗記には、専門的な会計用語等を適切に用いた解答が要求されます。

また、キーワードに配点がおかれる可能性が非常に高いと考えられるため、まずは、キーワード部分の暗記から取りかかります。そのときには、前提や結論等を意識しておくとういでしょう。

1 要請内容

継続性の原則は、一つの会計事実について、二つ以上の会計処理の原則または手続の選択適用が認められている場合に、企業がいったん採用した会計処理の原則及び手続を^{↑ 前提}每期継続して適用することを要請している。

↑ 前提
が認められている場合に、企業がいつ

【毎期継続して適用】することを要請して

↑ 結論

2 必要性

継続性の原則は、経営者の利益操作を排除し、財務諸表の期間比較性を確保
 ↑ 必要性① ↑ 必要性②
 するために必要となる。

↑ 必要性①

3 継続性の変更

継続性の変更は、「**正当な理由**」がある場合に認められる。

ここに「正当な理由」とは、会計処理を変更することによって、企業会計がより合理的なものになる場合を意味する。

↑ **結論** 由」とは、会計処理を変更することによって、企業会計が「正当な理由」の内容説明 ↑

【手順2】少しずつ暗記をし、徐々に覚える文章を増やしていきましょう。

長い文章をいきなり一気に覚えるのは難しい…

最初は結論のみ、つぎに理由など徐々に肉付けして暗記する文章を増やしていきます。

＜ステップ1＞ 結論の暗記！

1 要請内容

継続性の原則は、

毎期継続して適用することを要請している。

＜ステップ2＞ 少しずつプラス！

1 要請内容

継続性の原則は、

二つ以上の会計処理の原則また

は手続の選択適用が認められている場合に、

毎期継続して適用することを要請している。

＜ステップ3＞ 完成！

1 要請内容

継続性の原則は、**一つの会計事実について**、二つ以上の会計処理の原則または手続の選択適用が認められている場合に、**企業がいったん採用した会計処理の原則および手続を**毎期継続して適用することを要請している。

この手順で覚えると、

- * 落としてはいけないキーワード
- * 文章の構成、骨子
- * それらを修飾する言葉 が、順序よく覚えられます。

【手順3】あとは、ひたすら暗記する！

タイトルに着目しながら、文章を組み立てていきましょう。

1 要請内容

継続性の原則は・・・・・・・・・・要請している。

2 必要性

継続性の原則は・・・・・・・・・・必要となる。

3 継続性の変更

継続性の変更は・・・・・・・・・・認められる。

いかがでしょうか。

気の遠くなるような長い文章も、ステップをふむことで覚えられます。

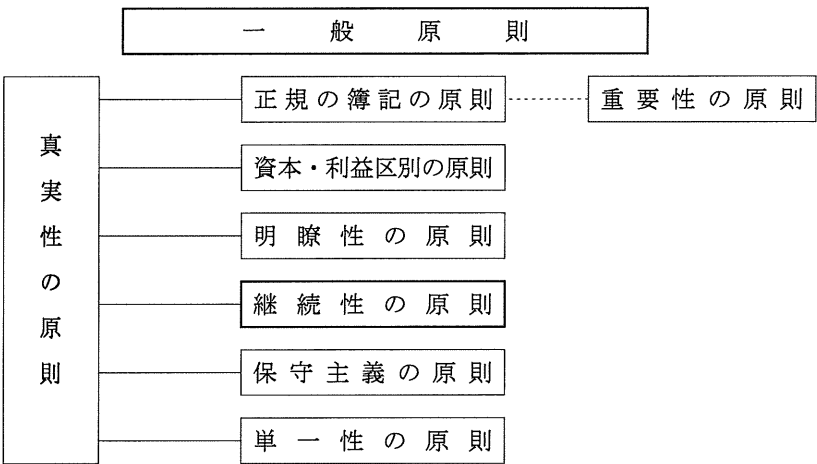
5 暗記の定着！

暗記をした項目について、大枠を思い浮かべてみましょう。

【論点ごと】

暗記する項目を含む論点全体を把握します。

- * その項目は、どのような論点に含まれていましたか？
- * 関連する項目は、どのような内容でしたか？



【ポイントごと】

次に、その項目にはどのような内容が書かれているのか、タイトルのみをあげてみましょう。

- | | |
|----------|---------------------------|
| 1 要請内容 | ← この原則は、どのような内容を要請しているのか。 |
| 2 必要性 | ← なぜ、この原則が必要とされるのか。 |
| 3 継続性の変更 | ← 変更はどんな場合でも認められないのか。 |

タイトルを思い浮かべることで、マスターしなければならない論点のストーリーや流れを理解することができるのです。

これらのことは、机に向かわなくても、又あまり時間をかけなくても、頭の中でイメージするだけで確認することができます。また、横断的な関連性がみえてくることによって、理解力や応用力も養うことができます。

6 暗記に挑戦!

それでは、これまでの内容をもとに、下記の題材を用いて実際に暗記をしてみましょう。

【手順1】文章の構成を確認しながら、キーワードを覚えてみましょう。

資本・利益区別の原則

1 要請内容

(1) 資本取引・損益取引区別の原則

期首の自己資本そのものの増減と自己資本の利用による増減とを明確に区
↑資本（区別するもの） ↑利益（区別するもの）
別することを要請している。

(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則

自己資本内部において、資本取引から生じた資本剰余金と損益取引から生
↑前提 ↑資本（区別するもの） ↑利益（区別す
じた利益剰余金とを明確に区別することを要請している。
るもの）

2 必要性

(1) 資本取引・損益取引区別の原則

適正な期間損益計算を行うためには、資本の増減と損益の増減とを明確に
↑結論（要請理由） ↑区別するもの
区別することが必要となるのである。

(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則

企業の財政状態及び経営成績の適正な開示を行うためには、維持拘束性を
↑結論（要請理由） ↑区別するも
特質とする資本剰余金と処分可能性を特質とする利益剰余金を厳密に区別す
る
ることが必要となるのである。

【実践】 練習してみましょう！

1 要請内容

(1) 資本取引・損益取引区別の原則

_____増減と_____増減とを明確に区別することを要請している。

(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則

_____において、_____から生じた_____と_____から生じた_____とを明確に区別することを要請している。

2 必要性

(1) 資本取引・損益取引区別の原則

_____を行うためには、_____と_____とを明確に区別することが必要となるのである。

(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則

_____を行うためには、_____を特質とする_____と_____を特質とする_____を厳密に区別することが必要となるのである。

【手順2】少しずつ暗記をし、徐々に覚える文章を増やしていきましょう。

ステップ1 結論をのみをおさえます。

1 要請内容

(1) 資本取引・損益取引区別の原則

.....明確に区
別することを要請している。

(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則

.....明確に区別することを要請している。

2 必要性

(1) 資本取引・損益取引区別の原則

.....区別することが必要となるのである。

(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則

.....区別す
ることが必要となるのである。

ステップ2 これに、修飾句や目的語等を肉付けしていきます。

1 要請内容

(1) 資本取引・損益取引区別の原則

資本の増減と資本の利用による増減とを明確に区別することを要請している。

(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則

……利益剰余金とを明確に区別することを要請している。

↑利益

↑資本

……資本剰余金と

2 必要性

(1) 資本取引・損益取引区別の原則

適正な期間損益計算を行うためには、
 ↑結論（要請理由）
 区別することが必要となるのである。

(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則

企業の財政状態及び経営成績の適正な開示を行うためには、
 ↑ 結論（要請理由）
 区別す
 ることが必要となるのである。

【手順3】あとは、ひたすら暗記する！

【実践】 練習してみましょう！

1 要請内容

(1) 資本取引・損益取引区別の原則

_____を_____。
↑何を ↑どのよ
_____している。
うに要請しているか

(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則

_____, _____
↑前提 ↑何を
_____を_____している。
↑どのように要請しているか

2 必要性

(1) 資本取引・損益取引区別の原則

_____, _____を_____。
↑どのようなことを理由として ↑何を ↑必要
_____である。
としているのか

(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則

_____, _____
↑どのようなことを理由として ↑何を
_____を_____。
↑必要として
_____である。
いるのか

いかがでしょうか。

常に、文章構成や内容を意識することが必要です。

では、設例に挑戦してみましょう。

.....

設 例

1 資本・利益区別の原則が要請している内容について、それぞれ答えなさい。

(1) 資本取引・損益取引区別の原則
(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則

2 資本・利益区別の原則の必要性について、それぞれ答えなさい。

(1) 資本取引・損益取引区別の原則
(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則

お疲れ様でした。解答は以下のとおりです。

.....
解 答

1

(1) 資本取引・損益取引区別の原則
期首の自己資本そのものの増減と、自己資本の利用による増減とを明確に区別すること
を要請している。
(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則
自己資本内部において、資本取引から生じた資本剰余金と損益取引から生じた利益剰余
金とを明確に区別することを要請している。

2

(1) 資本取引・損益取引区別の原則
適正な期間損益計算を行うためには、資本の増減と損益との増減とを明確に区別するこ
とが必要なのである。
(2) 資本剰余金・利益剰余金区別の原則
企業の財政状態及び経営成績の適正な開示を行うためには、維持拘束性を特質とする資
本剰余金と処分可能性を特質とする利益剰余金を厳密に区別することが必要となるのであ
る。

キーワードは、正確にかけていますか？

抜け落ちている部分はありませんか？

7 おわりに

本日の暗記セミナー、いかがだったでしょうか。

上述のことをまとめると、理論の効果的な学習には、以下の2点に注意をはらうことが必要です。

＊ 暗記をする時には順序だてて覚え、又定着を促すように体系や大枠をイメージつける。

・・・・・・質のよい暗記

＊ 暗記をした後は、反復することによって、長期的な記憶として定着させる。

・・・・・・暗記の固定化

財務諸表論を含め、税理士試験で合格するには相当量の暗記が不可欠です。

つまり、「税理士」資格を勝ち取るには、暗記の効果的な学習方法を身に付けることが必須なのです。

当セミナーが、みなさんが今後学習していく上での一助となれば幸いです。